



## 『つづられた卑弥呼「女」の創出と国家』

義江明子 筑摩書房／ちくま新書

本 館

請求記号：X/081/C44/528

資料ID：700881337

### 文学部教授 廣川 和花

近年、ジェンダー史研究の進展には著しいものがあります。日本史におけるジェンダー史研究では、とりわけ古代史分野においてめざましい成果が生まれています。本書の著者は、そうした日本のジェンダー史研究を長年牽引してきたパイオニアの一人です。本書は、「古代の指導的立場にあった女性は、みな「巫女」だった」という通説を疑い、政治的実権を持った王として卑弥呼をとらえなおします。そして「卑弥呼＝巫女」というイメージは、実は近代以降に、西洋の影響を受けた「近代的」な歴史学の影響のもとで「つづられた」ものだったことが鮮やかな論証によって明らかにされていきます。

過去の出来事を、私たちはつねに現在の視点からみている以上、今という時代の価値観や自分自身のとらえ方の枠組みから完全に自由になることは不可能です。しかし少なくとも、過去のある時点でのあるものごとのとらえ方がどのように今と異なるのかを知ることによって、そのことを意識することはできる。この本は、その心の持ちようを教えてください。そしていつかはこの本のとらえ方もまた、時代の制約を受けたものとして学問的な批判を受けることになるかもしれません。私はみなさんの中のだれかが、それ以上にみなさんひとりひとりが、その批判者となることを期待しています。